



第6回 奈良教育大学 運営諮問会議について

広報室

研究所取締役社長、村田勝彦奈良商工会議所専務理事、高等教育行政関係者から内田弘保前文化庁顧問、学識経験者から金森順次郎国際高等研究所長、永井順國女子美術大学教授の委員十名が出席し、本学からは、学長、

第六回奈良教育大学運営諮問会議が、七月一日(月)に本学大会議室において開催されました。

運営諮問会議は、大学が社会からの意見を聴取し、社会的責任を明らかにするため、外部有識者の立場から、学長の諮問に応じて審議し、学長に対して助言または勧告を行うことを目的として平成十二年度に発足しました。

第一期運営諮問会議は二年間(平成十二年四月から平成十三年三月)で五回開催されましたが、平成十四年四月から第二期運営諮問会議とし、第六回目となる運営諮問会議には六名の新たな委員をお迎えしました。

会議には、地方教育行政関係者から矢和多忠一奈良県教育委員会教育長、学校教育関係者から藤田康子奈良県立北大和高等学校長、地域団体関係者から南浦純一郎(財)奈良県文化事業団副理事長、高等教育関係者から丹羽雅子奈良女子大学長、横須賀薫宮城教育大学長、経済界・産業界関係者から前原金一(株)住友生命総合



会議で発言する大久保学長

当、副学長(教学担当、附属図書館長、事務局長ほか各種委員会委員長等)が出席しました。会議開催に先立ち、委員長及び副委員長を委員の互選により選出し、委員長には南浦純一郎委員、副委員長には藤田康子委員がそれぞれ選出されました。

会議ではまず、本学両副学長より、奈良教育大学の概要並びに教育研究及び管理運営の現状について説明が行われました。次に、学長より、奈良教育大学の今後のあり方に関する検討状況

及び奈良教育大学の将来を構想するにあたっての基本的な考え方についての説明が行われ、これを受けて議題として奈良教育大学の今後のあり方について終始活発なご議論をいただきました。

各委員からの主な意見・ご指摘は次の通りです。

- ・教育学部の再編統合については、特に小学校・中学校の教員と地元とのつながり、単に教育を規模や機能で考えるのか、地元の伝統・生活に密着した教員であるべきかなどをどう考えていくのが問題。
- ・新課程は教育学部の幅を広げる点で意味があったのではないかと。また、卒業生の大学院進学状況はどうか。
- ・全教官が加わったオフィスアワーを始められたが、学生の反応や利用状況はどうか。
- ・教員志望の高校生が大阪や京都に出ていくことのないように、奈良でしっかりと養成していく大学であってほしい。他府県の受験生にも、もっとPRを。
- ・大学院に社会人を受け入れると地域社会の活性化につながっていく。
- ・教員養成大学は特に義務教育に対する社会貢献が大切。大学の再編統合の如何に関わらず、教育を大切にすることが必要。

各委員から以上のようなご意見やご提言をいただき、次回も引き続き検討いただくこととなりました。

なお、第七回奈良教育大学運営諮問会議は十一月に開催される予定です。

※これまでの審議内容は、本学ホームページ(<http://www.nara-edu.ac.jp/home-jp.htm>)にも掲載しております。



運営諮問会議会場 本学大会議室